

平成21年 4月30日現在

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2006～2008

課題番号：18760457

研究課題名（和文） イタリアの地域における劇場のあり方に関する研究

研究課題名（英文） Relations between theatres and regions in Italy

研究代表者

大月 淳(OTSUKI ATSUSHI)

名古屋大学・大学院環境学研究科・助教

研究者番号：20293673

研究成果の概要：イタリアを対象とし、そこでの(1)民営化の変化に対応する劇場のあり方、(2)個別の劇場と地域の関わり方、(3)劇場間の関係性のあり方、をエミリア・ロマーニャ州を中心に明らかにし、今後の地域における劇場のあり方に関する知見を得た。国を中心とする公共セクターの影響力を強く残す形での民営化(=財団化)の経緯と現状、劇場と地域及び劇場間の関係性を規定するジャンルを軸とした「劇場活動カテゴリー」のあり方は、現在、公共劇場の再構築が課題となりつつあるわが国において参照に値する。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,600,000	0	1,600,000
2007年度	900,000	0	900,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,500,000	300,000	3,800,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画

キーワード：イタリア、劇場、地域、民営化

1. 研究開始当初の背景

本研究課題は、文部科学省在外研究員(2003年9月～2004年8月)としてのイタリアにおける劇場の調査研究(「イタリアの劇場の現況に関する研究」)をベースとする発展研究である。

「断片的に伝えられるイタリアにおける行財政改革に伴う劇場を巡る環境の変化(劇場の民営化を中心に、劇場運営の外部委託化、そこでの民間非営利セクターの参入)」に対する着目に由来する当該在外研究に端を發

するイタリアの劇場に関する研究の過程で、同国における地域の独立性・独自性の重要性への認識が生じたことが本研究の背景である。

2. 研究の目的

行財政改革に伴う変革の最中にあるイタリアの劇場について、同国における地域の独立性・独自性に着目しながら、その現状について把握を行い、そこから地域と劇場を考える上での知見を得ることが本研究の全体構

想であり、今回の研究期間においてはエミリア・ロマーニャ州を取り上げ、以下の3点について明らかにすることを具体的な目的とした。

(1) 民営化の変化に対応する劇場のあり方

劇場における制作・上演等の活動、それらを担う組織・スタッフのあり方への民営化の動きの影響

(2) 個別の劇場と地域（州、コムーネ）の関わり方

基礎自治体であるコムーネ及びより広域の州における各劇場の位置づけ、劇場の地域に対する意識、貢献

(3) 劇場間の関係性（棲み分けとネットワーク）のあり方

コムーネ及び州等の地域内における劇場間でのジャンル、プログラムの棲み分け、ネットワーク

3. 研究の方法

わが国において入手可能な情報が極めて限られることから、現地調査を研究の中心に据えた。自身の既往研究、研究期間を通じての現地の劇場関係者へのヒアリングから抽出したケーススタディ対象劇場の実態調査を中心に、それと並行して、劇場と対応する行政、法制度等に関するヒアリング調査、文献調査を実施した。

実態調査の対象は、エミリア・ロマーニャ (Emilia Romagna) 州を中心とするボローニャ (Bologna)、モデナ (Modena)、フェッラーラ (Ferrara)、ラヴェンナ (Ravenna) 等の各種劇場 (テアトロ・コムナーレ・ディ・ボローニャ、テアトロ・コムナーレ・ディ・モデナ、テアトロ・ストルキ、テアトロ・コムナーレ・ディ・フェッラーラ、テアトロ・アリギエリ、テアトロ・デッレ・アルベ等) であり、現地視察を行い、芸術監督、技術監督、経理部門、教育部門責任者等、様々な立場の関係者を対象とするヒアリングを実施するとともに図面等データを入手した。

各種調査データを精査、統合して、複雑で多様なイタリアにおける劇場と地域の関係性を顕在化した。

4. 研究成果

(1) 民営化の変化に対応する劇場のあり方

① 民営化の経緯

イタリアにおける劇場民営化とは、劇場活動カテゴリー（後述）の内の一つであるエンテ・アウトノモ・リリコ (Ente Autonomo Lirico: オペラ自治法人; 以下 EL) に属する劇場を中心にして、その財団 (fondazione) への3年以内の強制的な移行を定めた1996年6月29日委任立法令第367号の施行に端を発するものである。各劇場の財政、活動の自立性獲得が主たる目的とされている。

移行の基盤となる民間出資が当初の想定通りには得られなかったことにより、条件を緩和する1998年4月23日委任立法令第134号が新たに公布されるといった紆余曲折を経ながらその移行は進行した。

ミラノ・スカラ座 (Teatro alla Scala) のみが必要な民間出資を期限内に獲得し、1997年に財団化。それ以外の12のELも1999年までに財団に改組した。改組後のカテゴリー名称はフォンダツィオーネ・リリカ (Fondazione Lirica; 以下 FL) であり、2003年に新たに1劇場が追加されている (表1)。

表1 フォンダツィオーネ・リリカ

劇場 Teatro	州 Regione
① Teatro Regio Torino	Piemonte
② Teatro alla Scala	Lombardia
③ Teatro Carlo Felice	Liguria
④ Teatro Lirico <Giuseppe Verdi>	Friuli Venezia Giulia
⑤ Teatro La Fenice	Veneto
⑥ Arena di Verona/Teatro Filarmonico	Veneto
⑦ Teatro Comunale di Bologna	Emilia Romagna
⑧ Teatro Comunale di Firenze	Toscana
⑨ Teatro dell'Opera di Roma	Lazio
⑩ Teatro San Carlo	Campania
⑪ Teatro Petruzzelli	Puglia
⑫ Teatro Massimo <Vittorio Emanuele>	Sicilia
⑬ Teatro Comunale (Lirico di Cagliari)	Sardegna

財団化の動きは地方分権政策の一環としても位置付けられ、ELにとどまらずそれ以外の地域の拠点劇場へも波及している。本研究におけるケーススタディ対象としたテアトロ・コムナーレ・ディ・フェッラーラ Teatro Comunale di Ferrara は2009年に入って財団化され、そうした事例の最新のものとなっている。

財団化に関する評価を下すことは容易ではないが、少なくとも、1998年4月23日委任立法令第134号による条件の緩和に象徴されるように、それが必ずしも妥当性の十分な検証の上に進められたものではなかったことは指摘されよう。

ELの例においても、財団化の根幹をなす民間セクターの参画に対する甘い見通しもさることながら、その一方で、当初、民間出資の上限を定めることにより国を中心とする公共セクターの関与の余地を大きく残すように考えられていた。財政を中心とする組織の安定化という側面においてのそのことの有効性は理解されるが、そもそもの民営化の理念との間に齟齬が見られよう。その点についての検証がなされなければならない。

② 財団化と劇場のあり方

財団化とそれに対応する劇場のあり方はELの中にあってもスカラ座とそれ以外の劇場とに大きな差があり、ELの劇場とそれ以外の劇場との間でもまた異なる様相を呈する。ELはオペラに係わる制作・上演組織を有す

るいわゆる「オペラ劇場」であり、数ある劇場活動カテゴリの中で活動に要する費用の大きさにおいて突出している。そこでの劇場財政自立の方向性は国の負担軽減のそれと合致し、そこにELが主たる対象とされたことの背景が読み取れる。

しかし、スカラ座以外は民間出資が思うように得られなかった財団設立経過をみても明らかなように、財政的な自立性はほとんどの劇場において担保されたとは言い難い。民営化を謳いながら、当初より国を中心とする公共セクターの影響力を残すような規定が設けられていたが、それも不要であったと思わせるような形で財団化は実現をみた。公共セクター、特に国が財政面で大きな役割を担う構造が温存されることとなったのである。

そのことにもより、既に大きな流れとはなっていた国の文化予算削減に対して、その更なる推進を目指すか修正を目指すかの、その時々の政府の考え方の違いにより劇場運営が大きく左右されるような状況が生じている。2008年に始まる現政権下は劇場にとって困難な時期となっている。補助金の大幅な削減が行われ、幾つかの劇場において当初予定のプログラムのキャンセル、劇場職員の解雇等の問題が引き起こされている。

EL以外の劇場においては、民営化は強制ではないものの、地域の主要な拠点劇場の多くにおいて、その所有主体である自治体の判断により、その移行が選択されている。先に挙げたテアトロ・コムナーレ・ディ・フェッラーラについても、2004年時点で財団化の検討が既に行われていたことが確認され、それが2009年になってようやく実行されたことになる。

それらEL以外で財団化を選択した劇場にあっては、ELと異なり元来の組織がコンパクトであることもあり、その移行において活動に大きな支障が出ることはないのが一般的のようであるが、それでも職員の立場に関する問題は生じている例もみられる。また、財団への移行の初期において、業務引継ぎの不徹底等による、トラブルがあった例についても確認されている。

(2) 個別の劇場と地域（州、コムーネ）の関わり方

① 劇場のカテゴリと地域の関係性

イタリアにおいては大まかに音楽、演劇、ダンスの三つのジャンルを軸とする劇場活動の括りが比較的明確になされており、それは法制度においてもみることができる。ジャンルに応じた各種法令において劇場活動に関するいくつかのカテゴリが示されており、それに従った活動助成がなされているのである。

音楽、その中核となるオペラを例に挙げれ

ば、1967年法律第14号とその関連する法令においてEL（既述の通りELは現在はFLである）、テアトロ・ディ・トラディツィオーネ（Teatro di Tradizione：TT）（表2）の二つのカテゴリが示されている。

表2 テアトロ・ディ・トラディツィオーネ

劇場 Teatro	州 Regione
1 Teatro Coccia	Piemonte
2 Teatro Sociale di Como	Lombardia
3 Teatro Donizetti	Lombardia
4 Teatro Grande	Lombardia
5 Teatro Fraschini	Lombardia
6 Teatro Comunale <A. Ponchielli>	Lombardia
7 Teatro Sociale di Mantova	Lombardia
8 Teatro Comunale Chiabrera	Liguria
9 Teatro Sociale di Rovigo	Veneto
10 Teatro Comunale di Treviso	Veneto
11 Teatro Municipale di Piacenza	Emilia Romagna
12 Teatro Regio	Emilia Romagna
13 Comunale <Romolo Valli>	Emilia Romagna
14 Teatro Comunale di Modena	Emilia Romagna
15 Teatro Comunale di Ferrara	Emilia Romagna
16 Teatro Comunale <Dante Alighieri>	Emilia Romagna
17 Teatro del Giglio	Toscana
18 Teatro Verdi	Toscana
19 Teatro Goldoni	Toscana
20 Teatro G.B. Pergolesi	Marche
21 Arena Sferisterio	Marche
22 Teatro Marrucino	Abruzzo
23 Teatro Politeama Greco	Puglia
24 Teatro Comunale Alfonso Rendano	Calabria
25 Teatro Massimo <Vincenzo Bellini>	Sicilia
26 Teatro aperto di Villa Margherita (=Teatro Giuseppe Di Stefano)	Sicilia
27 Teatro Verdi	Sardegna

両者共に劇場活動が特定の劇場と関係付けて示されており（ここでは、基本的に活動組織と劇場名が一致している、すなわち一対一対応している）、その意味においてそれらは「劇場活動カテゴリ」とどまらず「劇場カテゴリ」として捉え得る。

演劇、ダンスのジャンルではその点、活動組織と劇場の対応が多様（FL、TTのように一対一ではない）であり、カテゴリが定められているものの、それらを「劇場カテゴリ」と捉えることは出来ない。演劇のカテゴリとしてはテアトロ・スタビレ・プブブリコ（Teatro Stabile Pubblico）、テアトロ・スタビレ・プリヴァート（Teatro Stabile Privato）等がある。

それら「劇場活動カテゴリ」と地域との関係性をみると、大まかにカテゴリに応じて州、県、コムーネの各行政区分に対する意識が異なっていることが確認される。その中でFL、TTは劇場が基本的に一つに特定される点でその関係性も比較的分かりやすい。

まず、FLについてはヴェネト州を例外として、各州に1劇場のみが州都に存在している（表1）。州が基本的に各劇場に対応する区域として捉えられるが、20ある州全てに劇場が存在するわけではない。劇場が存在しない州に対応するため、その立地する州のみならず、

より広域を意識している劇場もある。ペトルツェッリ劇場 Teatro Petruzzelli (表2: 番号⑩) は公式HPにおいて南イタリア全体に対する貢献を述べている。

一方のTTについては、エミリア・ロマーニャ州のように複数劇場が存在する州がある一方で、やはり全く存在しない州もある。

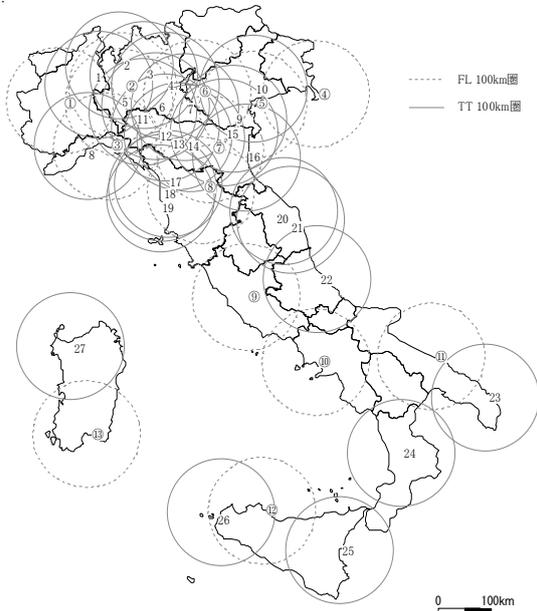


図1 FF, TTの劇場の立地 (図中番号は表1, 2と対応)

ただし、県レベルでの複数立地はなく、それは法令の定めに従ったものである。県、州が少なくともそこでは意識される。

FL, TT両者を合わせて、地図上で各劇場の位置を見ると(図1)、各劇場の100km圏の円によって国土全体が概ね覆われる形となっていることが分かる。そこで、FLのペトルツェッリ劇場及びTTのマルチーノ(Marrucino)劇場(表2: 番号22)がそれぞれのカテゴリーへの最新の加入である。共に劇場の少ない南部の領域を埋めるように位置しており、その加入が認可によるものであることを合わせて考えると、FL, TT両カテゴリー合わせて国土全域でのオペラ提供を担保しようとする国の政策的な意図をそこに読み取ることが出来る。

②財政面における劇場と地域の関係性

劇場の財政構造からも、劇場と地域との関係性は捉えることが出来る。その財政構造のあり方も多様であるが、大まかな傾向が劇場活動カテゴリーとの対応から見る事が出来る。

スカラ座、そして、ボローニャ、フェッラーラの両テアトロ・コムナーレの3劇場に対する補助金について拠出主体毎の内訳(表3)を比較すると、FLである前二者は国に、TT

の後二者はコムーネに財政面で大きく依存していることが分かる。

表3 劇場に対する補助金の比率

劇場	Teatro alla Scala	Teatro Comunale di Bologna	Teatro Comunale di Ferrara
年度	2002	2002	2003
国	60.7%	78.0%	21.1%
州	4.0%	5.9%	1.3%
県	0.2%	6.4%	0.0%
コムーネ	10.4%	0.4%	77.6%
民間	24.7%	9.3%	0.0%
	100.0%	100.0%	100.0%

FLの二者の状況については、財団化後も維持された国への大きな依存が明確に示されたものである。そして民間の参画が充実したスカラ座とそうでない劇場との差も読み取れる。

一方、フェッラーラのテアトロ・コムナーレについては、財団化する以前、すなわち、コムーネによる直営といえる運営形態に伴う状況である。イタリアにおいては、ほとんどの公共劇場の所有主体はコムーネであり、そこでの財政は基本的にコムーネが負っている。そして、劇場活動カテゴリーによって配分される国からの補助金の有無、多寡が劇場毎の差異を生み出している。

以上のことから、大きく見れば、FLの劇場においてはコムーネから国までが、TTを含むそれ以外のほとんどの公共劇場においてはコムーネが、それらの劇場の活動において意識されるべき領域として捉えられる。

(3)劇場間の関係性(棲み分けとネットワーク)のあり方

①同一ジャンルの劇場間の関係性

劇場間の関係性を見るにあたって、「劇場活動カテゴリー」を軸とすることが有効である。

先に見たように、オペラに関しては、FL, TTを合わせた各劇場において、それぞれコムーネ、県、州、より広域、といった様々な領域が意識され、それらを全体として見ると国土全域が網羅されるような形となっている。国土全域でのオペラ提供を担保しようとする国の政策的な意図はともかく、実質的に偏りはあるものの全土に散らばった各劇場間ではネットワークが構築され、共同制作も広く行われている。

そうした関係性は同一カテゴリー、同一州を基本としながら、時にカテゴリー、州を越えても成立している。例えば、2003年から2004年にかけてのシーズンでは、FLのテアトロ・コムナーレ・ディ・ボローニャとTTのテアトロ・コムナーレ・ディ・モデナにお

いて『チェネレントラ (CENERENTOLA)』が共同制作・上演されている(表4)。また、同じシーズンでトスカナ(Toscana)州を中心とするTTの複数劇場にエミリア・ローマニャ州の同じくTTの1劇場が加わっての共同制作・上演も見られる(表5)。

表4 劇場カテゴリーを越えた共同制作

作品名	劇場	州	上演日
LA CENERENTOLA	Teatro Comunale di Bologna (FL)	Emilia Romagna	(2003)12/16, 19,21,23,28,30,(2004)1/20,(2004)1/2
	Teatro Comunale di Modena (TT)	Emilia Romagna	(2004)1/9,11

表5 州を越えた共同制作

作品名	劇場	州	上演日
TURANDOT	Teatro Alighieri (TT)	Emilia Romagna	(2003)11/14, 15,16
	Teatro del Giglio (TT)	Toscana	(2003)10/30, 31
	Teatro Verdi (TT)	Toscana	(2003)11/8,9
	Teatro Goldoni (TT)	Toscana	(2003)11/27, 28

演劇に関しての状況は複雑である。テアトロ・スタビレ・プブブリコ、テアトロ・スタビレ・プライベートの「劇場活動カテゴリー」の存在と、そこでの活動組織と劇場の対応が多様であることについて先に触れた。エミリア・ローマニャ・フォンダツィオーネ (Emilia Romagna Fondazione:ERT) はテアトロ・スタビレ・プブブリコのカテゴリーに属するが、本拠地はモデナであるものの、それ以外のエミリア・ローマニャ州の複数コムーネの劇場活動を担っている(表6)。

表6 ERTが活動を担う劇場(2008)

県	コムーネ	劇場
Modena	Modena	Teatro Storchi
	Modena	Teatro delle Passioni
	Castelfranco Emilia	Teatro Dada
	Maranello	Auditorium Ferrari
	Mirandola	Teatro Nuovo
	Pavullo nel Frignano	Teatro Mac Mazzieri
Bologna	Casalecchio di Reno	Teatro Alfredo Testoni
Ferrara	Ostellato	Teatro Barattoni
Forlì	Cesena	Teatro Bonci
Reggio Emilia	Bagnolo in Piano	Teatro Gonzaga
	Correggio	Teatro Asioli
	Novellara	Teatro della Rocca
Rimini	Cattolica	Teatro della Regina

その結果、それら各劇場においてはERTを介してのネットワークともいえる関係性が形成される。ストルキ(Storchi)劇場とパッションニ(Passioni)劇場のように、同じコムーネ内に複数存在する劇場間にあつては、同じ演劇ジャンルであっても規模、サブジャンルによる棲み分けが行われている。

ERTのネットワークは、そうしたERT自身を核としたものとはまた別の広がりを持つ。その筆頭に挙げられるのが、同じテアトロ・

スタビレ・プブブリコの劇場間のネットワークであり、それはイタリア全域に渡る。

テアトロ・スタビレ・プブブリコに属する各活動組織について、それぞれ多様な劇場の関係性がみられ、それが全体としての複雑性へと繋がっている。

②異ジャンルの劇場間関係性

異ジャンルの劇場間関係性については基礎自治体であるコムーネレベルで見ることが必要である。そして注意すべきなのは、全ての劇場がここまで見てきたように必ずしも単一ジャンルのみの活動を担っているわけではないことである。TTについてもオペラジャンルのカテゴリーとして定められている旨を示したが、実際には劇場毎にその活動内容には差があり、中にはいわゆるオペラ劇場に一般的なオペラ、バレエ、コンサートの他に演劇、ダンス等がプログラムとして含まれている例もある。

そうしたTTの劇場を有しているコムーネの一つであるモデナにおける劇場間関係性を見ると、ジャンルについて劇場規模とも対応して棲み分けがなされている様子が確認される(表7)。

表7 モデナの200席以上の劇場(2006)

劇場	客席数	プログラム
Teatro Comunale	901	オペラ、バレエ、コンサート
Teatro Storchi	952	演劇、ダンス、オペレッタ、コンサート
Teatro delle Passioni	148	演劇、ダンス、コンサート
Teatro Michelangelo	480	映画、演劇
Teatro Cittadella	240	方言劇、ダンス、コンサート

TTであるテアトロ・コムーネレではオペラ、バレエ、コンサートが、そして、ERTが活動を担っているストルキ劇場及びパッションニ劇場では、先に触れたように、それぞれの劇場規模に応じた演劇、ダンス等がプログラムの核となっている。それ以外の劇場でも、ジャンルがあまり重複しないようにプログラム編成がなされている。

ここでは、複数存在する劇場間でのプログラムの棲み分けを行うことで、全体としてモデナというコムーネに対して多様なジャンルの作品を提供するような体制がとられているといえる。

そうした状況は他のコムーネにおいても確認される。モデナは平均的な都市規模のコムーネの中にあつて劇場数は多い方であり、他の劇場数の少ないコムーネにおいては、一つの劇場の担うジャンルが多くなるのである。

(4)まとめ

以上、(1)民営化の変化に対応する劇場のあり方、(2)個別の劇場と地域の関わり方、(3)劇場間関係性のあり方、の3点を軸として、イタリアにおける劇場と地域の関係性

をエミリア・ロマーニャ州を中心に概括的に把握した。そこでは、一部断片的にわが国にも伝えられていた同国における劇場民営化等の実情を把握した上に、その重要性にも係わらずこれまでわが国において欠落していた多くの情報を新たに加え、それらを体系的に整理している。

そこで明らかになった国を中心とする公共セクターの影響力を強く残す形で実現した財団化の経緯と現状、劇場と地域及び劇場間の関係性を規定するジャンルを軸とした「劇場活動カテゴリー」のあり方は、劇場法が検討されるなど公共劇場の再構築が重要な課題となりつつある現在のわが国において参照に値する。

さらに、ケーススタディによってなされた個別の劇場に関する建築、運用面のより具体的な状況把握は、国内外において有用なものと成り得る。研究期間中の財団化により、その改組前後の比較も可能となるテアトロ・コムナーレ・ディ・フェッラーラに関するデータ等はそれ自体が重要性を帯びている。そうした事例について、今後も継続的に調査研究することで、劇場建築計画のみならず劇場史における成果にも結びつけることが可能となる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

1) 大月淳：現代イタリアにおけるオペラ劇場の枠組みと特性，日本建築学会計画系論文集，第 632 号，2008.10，pp. 2075-2084 (査

読有)

2) 大月淳：作品との関係性から見た劇場の様態把握モデルの構築，文化経済学会文化経済学第 6 巻第 2 号，2008.9，pp. 61-69 (査読有)

3) 大月淳：客席規模を中心にみたイタリアにおける劇場の分布に関する研究，日本建築学会計画系論文集 第 610 号，2006.12，pp. 63-70 (査読有)

[学会発表] (計 2 件)

1) 大月淳：イタリアの劇場におけるスタジオ・オーネに関する研究－オペラを上演する劇場を中心に－，文化経済学会〈日本〉年次大会予稿集，2007，pp.104-105，2007.6.17 (埼玉大学)

2) 大月淳：上演作品との関係性を軸とする劇場の様態把握モデルの構築に関する研究－イタリアの事例への適用－，文化経済学会〈日本〉年次大会 予稿集，2006，pp. 61-64，2007.6.10 (久留米大学)

[その他]

ホームページ等

1) 社団法人に本芸能実演家団体協議会：劇場等の運営基盤のあり方に関する調査研究，「社会の活力と創造的な発展をつくり出す劇場法 (仮称) の提言」，2009.3，pp. 31-38

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大月 淳 (OTSUKI ATSUSHI)

名古屋大学・大学院環境学研究科・助教
研究者番号：20293673